

ご隠居・伊能忠敬

第3回

郷土史研究会会員

二子石 三喜男

(草部出身 熊本市在住)

17年間10次にわたる伊能忠敬測量隊の 測量の道筋と距離並びに関連事項

前月号のつづき 第7次測量

1809年（文化6）中仙道、山陽道、南九州の海岸線などを測量。この時肥後では天草、芦北、人吉、八代、荒尾、山鹿、熊本、大津、阿蘇の順に測量を進め、さらに竹田から府中（大分）へと九州横断の測量を行う。

（測量距離 7,405km）（測量隊員18名 期間631日間）

第8次測量

1811年（文化8）11月25日江戸深川黒江町の忠敬宅を出立。2回目の九州測量と中国、近畿、中部の内陸部の測量を行い3年半後の1814年（文化11）5月23日深川の自宅へ帰着。

（測量距離 13,083km）（測量隊員19名 期間913日間）

10次にわたる全測量行程の中で高森を通過したこの時の測量が距離も期間も最長であった。

文化9年6月21日のこの測量から2012年（平成24）7月29日が丁度200年目にあたります。

- 隊員 伊能 忠敬（測量隊隊長）この時68歳
坂部貞兵衛（副隊長）途中五島福江島で病気で死去
尾形 慶助 後に幕臣渡辺家に養子に入る
箱田 良助 17歳で忠敬に入門、後に榎本家に婿入りして榎本武揚の父となる
保木 永誉 忠敬の弟子この九州2回目の測量に参加
永井 充房 忠敬の弟子
今泉 直利 幕府役人で至時の息子景保の手付下役
門谷清次郎 幕府役人で忠敬の弟子。後に天文方役人
加藤嘉平治 忠敬供侍
宮野 善蔵 この第8次測量に参加
久保木佐右衛門 長持宰領
久保木佐治右衛門（佐助）第6次につづいて棹取り
大山 甚七 棹取り
笠原三之助 坂部副隊長供侍
清兵衛、清助、友吉、新八、弥兵衛の5名は従者

※ この時測量隊は10名の本隊と9名の支隊に別れ、高森方面を忠敬本隊が、椎葉方面を坂部支隊がそれぞれ測量

第9次測量

1815年（文化12）4月から翌年の1816年（文化13）4月まで伊豆半島と江戸の西部、北部などを測量。長い距離を船で渡る島々の測量には高齢の忠敬は不参加。

（測量距離 1,433km）（測量隊員11名 期間340日間）

第10次測量

江戸府内を一次と二次に分けて測量。

1815年（文化12）2月中、第9次の前に諸街道の始発点間を測量。

（測量隊員13名位 期間17日間）

1816年（文化13）8～10月二次測量。

伊豆諸島から始めた測量を10月23日の江戸市中の測量で終え、17年間10次にわたって行ってきた日本列島の測量を終えた。

（測量距離 不明）（測量隊員20名位 期間74日間）



馬場後藤利兵衛宅に忠敬が宿泊したことを示す標木



測量隊員が宿泊した永秀寺の鐘楼門



川走川に架設されていた橋の中央部分はこの石に4本の橋脚を立てて支えていたのではと想像される4つの穴が掘られている



測量日記に長尾坂と記されている現在の国道325号高森峠トンネル付近

次号につづく